

# 老健

## ほっかいどう

一般社団法人北海道老人保健施設協議会



特集

厳しい冬を乗り越えよう

雪国にいきる老健の  
知恵と工夫



CONTENTS

02 REPORT 第30回北海道老人保健施設大会

06 ろうけん拝見!

08 支援相談員のリレーコラム / TOPICS 研修地の魅力探訪

# 第30回 北海道老人保健施設大会開催!

## 「老健介護の新時代～エビデンスに基づくAI介護の理解～」

2023年10月14日(土)、4年振りとなった集合形式の老健大会がホテルエミシア札幌で開催されました。66施設から350人が参加し、さまざまなプログラムを通じ、研鑽を重ねました。当日の様子をレポートします。



### 開会挨拶 星野豊会長



実に4年振りの老健大会となりました。会員の皆さん、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。団塊世代が後期高齢者となる2025年の節目が迫り、春には介護報酬改定が控えるなか、医療と介護の両機能を有し、在宅復帰や在宅支援、リハビリを提供できる老健への期待は

ますます高まっています。人材確保や物価高騰など向かい風が続いていますが、最も大事なことは地域のなかで信頼される役割を果たすことです。新しい時代をしっかりと担っていく老健となれるよう、本大会を通じて研鑽を重ね、現場でそれをさらに発展させていきましょう。

### 2023年度北海道社会貢献賞 (介護老人保健施設事業功労者)

#### 授賞式

#### 受賞者

- 佐藤 達也さん(介護老人保健施設コミュニティホーム美唄)
- 木村 弥生さん(老人保健施設コミュニティホーム八雲)
- 岩倉 史拓さん(介護老人保健施設ケアステーションひかり)



3名の受賞者が登壇



表彰者を代表して謝辞を伝えた木村さん

### 分科会

演題数=29施設から42演題の発表がありました。ご発表、大変お疲れ様でした! 参加者アンケートの結果を一部、ご紹介します。

#### アンケートから

#### ●参加者の興味を集めた演題カテゴリトップ3

- No.1 管理運営 (ICTの活用)
- No.2 リハビリテーション/通所リハ・在宅支援
- No.3 業務効率化・改善

#### ●印象に残った演題トップ3

- No.1 「私は技能実習生 もっと私たちのことを知って下さい」アフィファ アミニさん(フェニックス)
- No.2 「使ってみよう音声入力!ケア記録の効率化を目指して」吉田哲也さん(月形緑苑)
- No.3 「業務効率化から自立支援へのアプローチ(通所編) 情報通信技術 (ICT) の導入と活用」深井勇太さん(さくら)

#### 発表カテゴリ

- 管理・運営
- ケア全般
- 医療的ケア・看護
- リハビリテーション
- 業務効率化・業務改善・教育・人材
- 栄養管理全般・工夫取り組み
- 通所リハ・在宅支援

### 基調講演

## 「LIFE(科学的介護情報システム)のこれまでとこれから～エビデンスに基づくAI介護の理解～」

厚生労働省 老健局老人保健課 長嶺 由衣子さん



「LIFE(科学的介護情報システム)に取り組んで良かったと思っただけのシステムにしたい」と強調した長嶺由衣子さんは、LIFEを開始した背景や経緯について振り返り、説明を行いました。現在、約8割の介護老人保健施設がLIFEを算定。長嶺さんはより効果的な活用方法や

スムーズな運用方法について事例(下記参照)もたくさん紹介しました。LIFEの今後については、「各加算の提出頻度の整理やエリアごとの比較など、皆さんのニーズに即した機能を付加できるようにすすめています。さまざまなご意見をお待ちしています。」と説明し、講演を締めくくりました。

### 要 Check!1

#### LIFEフィードバック 活用の手引き

三菱総合研究所による  
フィードバックの活用  
およびPDCAサイクルを通じた  
ケアの質向上を支援する資料集。



#### ココがポイント

施設の強みや改善点を整理するには、まずはグラフおよび表における位置や矢印が「赤色」になっているところに課題が見つかる可能性があります。反対に「青色」は、他施設と比較して強みになっている要素かもしれません。

### 要 Check!2

#### ケアの質の向上に向けた 科学的介護情報システム(LIFE)の 利活用に関する事例集

厚生労働省のホームページで  
公開中のLIFEを  
利活用するための事例集。



#### ココがポイント

必ずしも、不十分だった指標すべてに取り組む必要はありません。多職種で話し合っ、必要と思われるところにアプローチしてください。

### 要 Check!3

#### 科学的介護情報システム(LIFE)を 活用した介護過程実践に関する 調査研究事業

厚生労働省社会福祉推進事業として、  
介護過程実践におけるLIFEの活用に関  
する介護福祉士の関わりや  
実践の実態を調査した研究。



#### ココがポイント

介護職が介護課程を実践するときに生じる課題に加えて、LIFE導入における体制づくりや会議体のあり方などが豊富な事例と共に紹介されています。老健の事例も掲載されているので参考にしてください。

### 特別講演

## 「リハビリテーションで生涯現役社会を作る」

株式会社メディックプランニング 代表取締役 三好 貴之さん



作業療法士という国家資格を有し、全国の病院や高齢者施設のコンサルティングを手がける三好貴之さんは、入所後にチームでアプローチする有用性や、自立支援を具体的に推進して

いくポイントなどを解説。老健におけるリハビリテーションのあり方について見直しを呼びかける内容となりました。

### 閉会挨拶 谷内好 副会長

長時間の参加、運営、大変お疲れ様でした。今年度は、高齢者虐待防止の推進や感染症対策の強化、BCPの策定などの経過措置が終了となり、これからの日本の介護にとって重要な節目となる期間でした。今年度も残りわずかですが、シミュレーションを重ね、新年度から心新たにスタートできるよう取り組んでいきましょう。



乾杯の音頭をとる長谷川賢理事

たくさんの参加者にお集まりいただき、誠にありがとうございました。また来年度お会いしましょう!

懇親会

# 雪国に 生きる

老健の知恵と工夫



2024年度の介護報酬改定で豪雪地帯の通所リハビリの取り扱いについて議論にのぼるなか、加算があってもなくても、雪が老健運営に与える影響は数知れず……。

雪国だからこそ生じるお悩みと対策を紹介するとともに、冬を楽しむ事例もご紹介。一緒にこの冬を乗り越えましょう！

## 冬の通所リハビリの難しさ

冬季間、特に大変なのが通所リハビリの運営。雪深いエリアの老健に苦勞と対策を聞きました。

### 大型車から小型車に切り替え

大雪で利用者宅まで送迎車が行けなさそうときは、小型車に切り替えてお迎えにあがっています  
(倶知安・麓華苑、富良野市・ふらの)

### 通所から訪問へ

富良野のなかでも特に雪深い一部のエリアにお住まいの利用者さんたちは、通うのも危険だし体力も必要以上に使ってひと苦勞。そのため冬季間だけ通所リハビリから訪問リハビリに切り替えていただき、こちらから出向くようにしています(富良野市・ふらの)

### 除雪の提案

ケアマネジャーから利用者さんに対し、除雪サービス利用の提案をしています。通り道がつくれなくても足元が危険なので、砂を入れたペットボトルを持参しまくるようにしています  
(八雲町・コミュニティホーム八雲)

あまりに暴風雪がひどいときは通所リハビリそのものを早めに終了するほか、休止の選択をするという老健も多数。冬季間の老健運営はゆるくないのです……。



## 雪道運転対策

冬の運転のコツを学び事故を起こさない！

ゆう(南幌町)では、冬季間に全職員に対して交通安全研修を行っています。「シルバー人材によるドライバーも多いため、リスク管理の意味合いを込めて研修を行っています。コロナ前は警察署に講師をお願いしていましたが、2023年からは職員が講師を務めています。当法人の名前が入った車を運転するということは、地域に対して看板を背負っているのと同じ。慣れた道だからと気のゆるみが出てはならないため、今一度交通ルールの徹底や雪道での安全な運転技術を学んでいます」(介護老人保健施設ゆう・本部長 三浦航平さん)

事故はどうして起こる？



▲今回、講師を務めたのは事務長の岡村明紀さん

◀事故はどうして起こるのか、実際にあった事故事例も参考に安全運転の必要性を説明している



## 作業療法に雪を活用

認知症利用者が雪だるまを製作

みやびの森(旭川市)では、2019年に認知症専門棟の入居者を対象に、本物の雪を使った雪だるまづくりを実施しました。「外出機会の少ない認知症棟の利用者さんたちですが、『雪遊びをしたいね』と話が盛り上がり、たらいいっぱい雪を運んでくることに。雪に触れているうちに各々雪だるまを作り始めた利用



雪だるまづくりを楽しむ利用者



者さん。認知症の影響で四季を感じにくくなっていた方も、実際に冷たい雪に触って刺激になったようで、楽しそうにしていました。インフルエンザが落ち着き次第、再開したいですね」(介護老人保健施設みやびの森・介護職員 荻生隼人さん)

## 雪や寒さを楽しむ

マスコットの雪像がお客様をお出迎え

札幌市内でも西区の奥の積雪が多いエリアにたたくむ平和の杜(札幌市)。こちらでは2022年から毎年1月、同法人のマスコットであるエゾシカの「杜りん」を象った雪像製作に励んでいます。「来所する方楽しんでもらえるよう、総務課の職員が担当し、雪像を作っています。今年も作る予定です」(介護老人保健施設平和の杜・相談員 山本香奈子さん)



雪像づくりは、雪を型枠に入れて基礎をつくることから始める

約20日間かけて雪像が完成！



## キャンドルナイトで幻想的な冬の夜を演出

アートライフ恵庭(恵庭市)では、環境美化整備委員会で毎年中庭を舞台にイルミネーションやキャンドルナイトイベントを開催しています。2022年の冬は、約3500玉の電飾をまとったツリーが登場。翌年2月には、45個のアイスキャンドルを製作し、幻想的な雰囲気を演出しました。「キャンドルナイトは雪と氷があってこそキレイに見えますね」(アートライフ恵庭・事務長 齊藤英樹さん)



力を合わせてツリーを組み立てる環境美化整備委員会のメンバー



ゆるめく灯りが美しいアイスキャンドル

## 鍋行事

介護職員と利用者で多彩な鍋づくり

各ユニットのキッチンで、介護職員と利用者が一緒に鍋を作って味わう行事が恒例となっているのは、もみじの里(鹿追町)です。「2004年の開設以来、伝統行事になっています。これまでに、寄せ鍋や石狩鍋、豆乳鍋のほかミルフィーユ鍋やカレー鍋などちょっと変わり種も提供したことがあります。普段、食が細い利用者さんも食欲旺盛に味わっています。利用者さんから、具体的な切り方や味付けのポイントなどをアドバイスいただくことも



カラフル白菜ロール豆乳鍋



寄せ鍋



味噌鍋

多く、特に女性の利用者さんは昔の話をしながら楽しそうに調理していますね。今年の冬は秋田県出身の利用者さん監修できりたんぼ鍋を作る予定です」(社会福祉法人鹿追恵愛会 介護老人保健施設もみじの里・副施設長 西尾美希さん)

## もみじの里プレゼント

おすすめ鍋レシピ 白菜とろろミルフィーユ鍋 (4人分)

- ・白菜 ..... 6枚ほど
- ・豚ひき肉 ..... 300g
- おろし生姜 ..... 1かけ
- 料理酒 ..... おおさじ1
- 塩コショウ ..... 少々
- ・しょうゆベースのつゆ ..... 600ml
- ・長いも ..... 300g
- ・うどん ..... 100g

- 1 豚ひき肉にAの調味料を加えて、混ぜる。
- 2 白菜の上に1を広げ、白菜を重ねてミルフィーユ状にする。食べやすい大きさにカットし、鍋に並べる。
- 3 つゆをいれて、具材に火が通るまで加熱する。
- 4 鍋がふつふつとわいてきたらすりおろした長いもを流し入れる。
- 5 お好みで、メにうどんを入れる。

※利用者の好みによって鶏ひき肉へ変更や長いもなしの鍋など、アレンジします



# ろうけん拜見!

妹背牛町・滝川市の老健施設にお邪魔しました!  
在宅復帰・在宅支援、レクリエーション、ケア全般、多職種協働など、各老健が重点的に力を入れている取り組みを紹介していきます。



## 妹背牛町 老人保健施設りぶれ

アフターコロナで  
レクやリハビリを再考

入所定員 80名 通所定員 15名

その他型

雨竜郡妹背牛町字妹背牛361-22  
TEL 0164-32-3232



右から村上さん、中畑さん、齋藤さん、三浦さん、村岡さん

### 外出レク再開でリフレッシュ

周辺に畑が広がるのどかな風景にたずむ「りぶれ」。1995年に妹背牛町を設置者とし、指定を受けた社会福祉法人雨竜ことぶき会が運営を開始しました。運営管理者兼相談課長の村上功さんは、「当施設の名称は、町民の公募により“生きがい、を意味する『Livable』と“生きる、を意味する『Live』をかけた造語から命名されました。ここで、生きがいあふれた生活を送ってほしいと思っています」と話します。

隣には、同じく町が設置者となっているデイサービスセンターと生活支援ハウスを併設。

これらの敷地の中央には、広々とした中庭が広がり、天気の良い日は景色を眺めながら散歩やリハビリなどを行う場として親しまれています。

新型コロナウイルス感染症が少し落ち着いた今、再び始めたのが利用者からの要望も多い外出行事です。5月は菜の花見学、7月はサクラランボ狩り、9月はブルーベリー狩りに、入所と通所リハビリの利用者を対象に日数を分けて実施しました。「利用者さんの笑顔やリフレッシュした様子を見て、再開の意義を感じました」と村上さん。



果物の産地らしくブルーベリー狩りを楽しむ利用者ら

### 短時間リハビリで新たな層を獲得

また2023年6月から始めたのが、理学療法士1名、作業療法士2名体制で行う短時間の通所リハビリです。現状、26名の登録者のうち、10名弱が短時間リハビリを選択しています。作業療法士の中畑祐一さんは、「これまで長時間だと体力が厳しいからとリハビリを断念していた方も、利用しやすくなったのではないのでしょうか。また、サービスの入り口としてまずは短時間の利用を試して雰囲気をつかんだうえで、長時間の利用も検討したいといった方もいます。利用者さんの選択肢が広がったのは良かったと思います」と手応えを話します。

同施設の通所リハビリで大切にしているのは、小さな町ならではのアットホームな雰囲気。「利用者さん同士で懐かしい再会があったり、おしゃべりを楽しみに通っている方も多くいます。りぶれが、町民にとって憩いの場にもなればうれしいですね」と中畑さん。

町内には社会資源が乏しいことから長期療養の場としてのニーズも高くあり、悩ましい課題が多々あるといいます。「地域住民の皆さんはこの町に愛着を持っている方ばかり。期待に応えられるような施設運営をめざしていきたいですね」(村上さん)



短時間リハビリは、現在は町内の利用者がメインとなるが、少しずつ対象エリアも広げていく予定

## 社会福祉法人滝川市社会福祉事業団 滝川市老人保健施設 ナイスケアすずかけ

災害対策や快適空間の実現と  
心を潤すレクリエーション

入所定員 100名 通所定員 20名

その他型

滝川市江部乙町東13-1-60  
TEL 0125-26-4165



右から笹木さん、丹羽さん、田川さん、佐々木さん

### 補助金を活用してハード面を充実

ナイスケアすずかけでは、2023年から各種補助金を有効活用し、安全・安心かつ快適な施設づくりの取り組みを開始しています。

一つは、「災害時に備えた社会的重要インフラへの自衛的な燃料備蓄の推進事業費補助金」を利用した、災害時に強いエネルギーシステムの導入です。これは、LPガスを備蓄する「バルク貯槽」と供給設備が一体となった「LPガス災害バルク」、さらにLPガス消費機器も設置することで、停電時でもライフラインを確保するとともに、

高いエネルギー効率による環境負荷の低減も実現するもの。総務管理課長の笹木琢磨さんは、「18年の北海道胆振東部地震発生時のブラックアウトでは蓄電器はあったもののわずかしかなかったのですが、これであれば最大3日間の電力を確保できます。空調とボイラーも入れ替えたことで、快適な居室空間を維持できるようになりました」と説明します。

続けて、「介護サービス提供基盤等整備事業費補助金」を利用し、見守りシステムの導入も決定。

「見守りライフ(トーテックアムニティ株式会社製)」を採用し、離床検知やバイタル測定によって、利用者を見守るとともに介護の業務効率や負担軽減をめざし、今年から運用する予定です。

すでに職員にデモンストレーションも行っており、評判は上々だとか。「適切かつスムーズに運用していけるよう職員の協力・教育体制を整え、利用者さんやご家族にも理解を呼びかけたいと考えています」と笹木さん。

### ユニークなイベントを企画

ソフト面では、多彩なレクリエーションを展開している同施設。企画・運営は、3名の支援相談部門を中心に進めており、居酒屋イベントや流しそうめん、フェイシャルパックやハンドマッサージなどで身体も心も潤ってもらう「美容クラブ」なども開催しました。「居酒屋ではノンアルコールビールを楽しんでもらったのですが、ほろ酔い気分になる利用者さんもいました(笑)」と支援相談員の田川智子さん。「美容クラブでは香水をふって雰囲気盛り上げ、皆さん上機嫌でした」とケアマネジャーの佐々木愛美さんも話します。昨年2月には、作業活動の一環として利用者にランタンを製作してもらい、中庭に飾って楽しむ

「ランタンまつり」もはじまりました。支援相談員の丹羽麻菜美さんは、「利用者さんにはコロナ禍で我慢を強いる場面が多かったです。少しでも



提供した居酒屋メニュー

気持ちが晴れやかになるような企画をしていきたいですね」と抱負を語ってくれました。



ランタンを眺めて楽しそうな様子の利用者

事務連  
こがわから  
質問です

Q 通所リハビリで短時間を希望される方が多いようですが、リハビリに対するニーズとして多いものを教えてください。

A 在宅生活する上で、筋力低下に伴うふらつきや転倒の心配をする訴えが多いことから、筋力維持向上や基本動作の安定を図るためのリハビリを主体とし、歩行、階段昇降、可動域訓練をしています。

事務連  
ならから  
質問です

Q 閉塞感を打ち破る質の高い企画ですね! イベントの企画立案の際に大切にしていることはありますか?

A 職員で話し合いを行い、企画を立案する事を大切にしています。管理職としては立案された企画に対しては評価を行い、提出された企画のまま実施できるようにしています。

## 社会福祉士配置の評価と 多様な資格の支援相談員について

来年度改定される介護報酬の議論を行っている社会保障審議会介護給付分科会にて、老健施設における検討内容に社会福祉士配置の有無による評価について、対策案が示されました。今までは、類型分類指標等の内容に「支援相談員」の記述はありましたが、「社会福祉士の配置」が評価項目の対象になるのは、初めてではないかと思えます。

老健での支援相談員の役割は、単に入退所やデイケアの利用調整にとどまらず、施設マネジメントなど多角的な視点が求められていると思います。よく情報交換する支援相談員(社会福祉士)でも現在、事務長職に就かれている方も多くいます。そういった意味で、支援相談員=社会福祉士の配置が求められることも納得できる状況であり、社会福祉士会の研究でも老健類型指標等において優位なエビデンスが報告されています。

支援相談員兼事務課長

小野寺 孝徳

医療法人東札幌病院  
厚別老人保健施設  
ディ・グリユネン



現在老健の支援相談員として、多くの社会福祉士の方が活躍されていますが、リハビリ職等の方が支援相談員として勤務している施設も珍しくない状況になってきています。先日一部の老健の事務長や支援相談員の方と意見交換会を行いました。社会福祉士としてさまざまな資格の支援相談員との意見交換は大変有意義なものとなり、施設によっては支援相談員の中でも多様な視点での協働が行われていると感心しました。老健施設は、リハビリ施設、多職種協働の場ですので、今後はリハビリ職や栄養士、看護師が支援相談員として活躍することも当たり前になるのではないのでしょうか。

NEXT ▶

次の執筆者は、介護老人保健施設エスポワール北広島の佐藤幹博さんです。勉強会でご一緒に、情報交換する間柄になりました。

第3回

研修地の魅力探訪

せっかく  
ですから...

旭川編

食べる

体験する

### ③ 男山酒造り資料館

酒作りの歴史や製造工程を学べるだけでなくお酒の飲み比べも出来るため、旭川に来た友人を連れていくこともあります。大雪山の伏流水を使った仕込水を味わえるコーナーや限定商品も魅力的です。

### ④ 温浴施設キトウシの森きとろん

ちょっと足をのばせる方は、ぜひ旭川から車で約30分のところに位置する東川町へ。2023年夏に、あの建築家の隈研吾氏監修の温泉施設が誕生したそうです。私も未体験ですが行かれた方は感想を聞かせてください。

研修がてら、その土地の魅力に触れてみませんか。  
地元民だからこそ知るおすすめスポットを紹介します。

案内人 浜田 耕輔 (はまだ・こうすけ)

医療法人歓生会  
介護老人保健施設  
フェニックス  
事務部長

2001年、介護老人保健施設フェニックスに入職。介護福祉士を6年ほど経験した後、同法人で居宅ケアマネ、支援相談員を経て17年から現職。介護福祉士、介護支援専門員



旭川出身です。  
新卒でフェニックスに入職し、これまで一筋でやってきました。休日は、子ども5人のお父さんとして少年野球のコーチ業など慌ただしい毎日です。

### ① 旭川はれて屋台村

北海道の食文化発信拠点で、地元出身タレント杉村太蔵氏プロデュースの屋台村。25軒の個性溢れるお店が並び、ガーデンスペースでは季節ごとにイベントを開催しています。お店をはしごして、お気に入りの味を見つけてみてはいかがでしょうか！

### ② モルメン

プリプリのホルモンがのった旭川のご当地ラーメン「モルメン」が大好きです。市内ではたくさんのラーメン店で提供されていますが、私のおすすめは「ひまわり」さんのモルメン。大量の野菜と香ばしいホルモンが相性抜群です。

旭川市で行われる  
研修会は6月を  
予定しています。  
皆様ぜひ  
ご参加下さい！